

■ 目的・内容：

日本感性工学会論文誌に掲載する論文は、感性工学の発展に寄与することを目的に、広く感性工学に関する研究成果を掲載・発表するものである。

■ 投稿資格：

論文の著者に本学会会員が含まれていること。ただし、編集委員会が特に認めた者についてはこの限りではない。

■ 論文の種類：

日本感性工学会の考える原著論文とは、他の学術雑誌・商業誌などに未発表の論文をいう。但し、口頭発表、国際会議での発表、紀要等の組織内の刊行物で類似の内容が発表されていても、投稿を妨げない。

なお、人間・動物に関わる実験を含む場合は、所属機関等の倫理審査を経たものであることが原稿中に明記されていることを前提とします。この条件を満たしていない場合は、原稿を受理しません。

また、論文は4ページ以上、10ページ以下、ノートは4ページ以下を目安とする。

日本感性工学会では、感性工学に関連する分野・課題・方法論の多様性に鑑み、以下のように論文はA～Jのタイプを設けて査読の方針を想定している。但し、これは典型的なタイプ分けであって、これらの中間形を排除するものではない。投稿に際しては、どのタイプの論文と考えているかを投稿票等に明記すること（複数指定可）。

1) 論文 (Original Articles)：

- A. **技術報告論文**：取り組んだ問題が明確に示され、その問題を解決する手法や適用方法に新規性があり、その有効性が、論証あるいは実験結果により示されている。
- B. **開発報告論文**：取り組んだ問題が明確に示され、その問題を解決するために新たに手法あるいは開発過程に新規性のあるシステムを開発しており、そのシステムの有効性や問題点が、実験結果により示されている。
- C. **解決型実験報告論文**：取り組んだ問題が明確に示され、その問題を解決するために考案・改良した手法に新規性があり、その問題に適合するための手法上の工夫がなされていて、その手法の有効性と問題点が、実験結果により示されている。
- D. **実験手法開発型論文**：取り組んだ問題が明確に示され、その問題を解決、あるいは、その問題の性質を分析するために新たに実験を計画して実施しており、その実験手法の有効性と問題点が、実験結果により示されている。
- E. **現象発見型実験報告論文**：取り組んだ問題や実験の手法・手順が明確に示され、既知の理論や知見、実験結果、予想では説明できない現象が観測され、その現象を解明・解決することで、新たな科学・技術・文化・産業への貢献が期待される。
- F. **実問題解決論文**：取り組んだ問題が明確に示され、その問題を解決する方法論そのものに新規性あるいは工夫があり、その方法論の有効性が、実証・実践により示されている。
- G. **実践報告論文**：取り組んだ問題が明確に示され、その問題を解決するために考案・改良した手法に新規性があり、その問題に適合するための手法上の工夫がなされていて、その手法・方法論の有効性と問題点が、実証・実践により客観的に示されている。
- H. **事例分析論文**：対象とした事例・その分野が分析の対象としては初めてであり、その事例を分析するために新たな視点・手法・方法論などが工夫されており、有効な知見や新たな問題点の認識が、分析を通じて示されている。
- I. **問題提起論文**：対象とした問題・その分野や社会的背景が明確に示され、その問題に新規性があり、その問題が当該論文で明確に定義・定式化されており、その問題を解決することの重要性の説明・考察が示されている。
- J. **サーベイ論文・解説論文**：対象とした問題・その分野や社会的背景が明確に示され、十分な数の論文・文献・事例を調査・分析している。

なお、論文原稿には、その内容がよく理解できる150ワード以内の英文要旨をつける。

2) ノート (Note)：

感性工学に関する課題で、最新の知見・考察・実験結果など、成果が簡明に記されており、学術的に速報する価値が認められるもの。タイプは論文のタイプに準じる。長さは4ページ以内とする。

なお、ノートの原稿には、その内容がよく理解できる150ワード以内の英文要旨をつける。

■ 投稿の手続き：

日本感性工学会のホームページ上の論文投稿のページより、電子的に投稿する。論文原稿には、論文の内容を理解・検証するのに必要な範囲において、写真の他、動画や音などを含めることができる（これらのデータも投稿時に同時にアップロードすること。なお、データ容量が大きすぎてアップロードできない場合には、別途、編集委員会にご連絡ください）。具体的な手順については、上記ページ中の指示に従ってください。なお、論文の投稿後は、編集委員会の指示がない限り、原稿の修正・差替えはできない。

■ 論文の審査：

論文の採否は、編集委員会が所管する審査によって決定する。投稿された論文の区分については、投稿者の希望を尊重しつつ、編集委員会において最終的な決定を行う。

本論文誌に先行して、類似の内容が他の学術雑誌・商業誌に掲載された場合は、本論文誌での査読・掲載を取りやめるので、その旨連絡すること。

編集委員会は、投稿された論文原稿（写真、動画、音などを含む）について査読を行い、その結果、修正を求めることがある。修正を求められた論文が指定日を越えても再提出されない場合、編集委員会は投稿の意志なしとみなすことがある。

採録が決定した後、編集委員会の指示により、論文の原稿とその電子ファイルおよび著作権譲渡書を編集委員会に提出する。

また、掲載が決定された和文論文は、編集委員会の承認を得ずに変更してはならない。

■ グラ校正：

掲載原稿については、著者に校正を依頼する。校正は1回のみとする。校正の際に編集委員会が指示した事項および誤植以外に、元原稿を変更することは原則として認めない。

■ 投稿料：

投稿する場合、著者は投稿料10,500円を本学会に納入しなければならない。

■ 掲載料：

投稿した論文が掲載された場合、著者は、別に定める[掲載料]を本学会に納入しなければならない。

■ 著作権：

著作権に関しては、会則の規定に準ずる。

■ 本規定の施行・改正：

本規定は、平成25年9月4日より施行する。なお、本規定の改正は、理事会の議を経て、編集委員会が行う。

平成12年2月26日 制定	平成21年12月12日 一部改定
平成14年9月12日 一部改定	平成23年7月30日 一部改定
平成17年1月22日 一部改定	平成24年4月7日 一部改定
平成18年10月1日 一部改定	平成24年10月13日 一部改定
平成20年1月1日 一部改定	平成25年9月4日 一部改定

<付 記>

■ 掲載料：

論文掲載に伴う[掲載料]は、掲載頁数により、下表に示すものとする。

(単位：円)

	掲載頁数						
	4ページ	5ページ	6ページ	7ページ	8ページ	9ページ	10ページ
論文	37,000	37,000	37,000	37,000	37,000	47,000	47,000
ノート	37,000						

*論文は4ページ以上10ページ以下を目安とする。8ページまでは同額。

9ページを超えるときは、10,000円加算する。

*ノートは4ページ以下とする。

■ 論文審査委員会事務局住所：

〒103-0007

東京都中央区日本橋浜町2-55-5 グランドハイイツ1003

日本感性工学会事務局 論文審査編集委員会

TEL/FAX 03-3666-8000 (学会本部事務局)

E-mail: editor@jske.org (論文審査編集委員会事務担当)

jske@jske.org (学会本部事務局)

執筆要領

論文審査編集委員会

■ 原稿：

原稿は、本執筆要領に従って記述された日本語による原稿とする。完全版下（camera ready）原稿形式は廃止し、「和文フォーマット」に準じた体裁の原稿とする。

原稿には、必要事項〔原稿区分、標題、著者名・所属、キーワード〕を記入した本学会所定の〔投稿票〕を添付する。投稿票および和文フォーマットは、学会ホームページよりダウンロードして用いる。論文投稿・査読システムを使用する場合は、投稿票不要。

■ 原稿の長さ：

「原著論文」は、標題、著者名、所属、要約、キーワード、図、表、参考文献、著者略歴などを含めて、刷り上り頁で10頁以内、「ノート」は4頁以内にまとめる。なお、提出する原稿には、必ず頁数を付す。

■ 原稿の割付：

ホームページに掲載された本学会所定の〔割付用紙〕に従って、〔掲載区分、標題、著者名、所属、要約、キーワード〕および本文、参考文献、注の割付を行う。

■ 標題：

標題は和文ならびに英文とする。特に、主題は簡潔に、一見して研究論文の内容がよくわかるように工夫して記す。また、「……に関する研究（1）」などの研究の連続性を示す標題は主題とせず、副題にする。英文表題には、原則的に冠詞は付けない。

■ 著者名・所属：

著者名・所属は和文ならびに英文とする。

著者名は研究の直接担当者のみ限定し、謝辞のなかで挙げるのが適当と思われる研究者を著者扱いすることは避ける。

所属は、大学名・団体名のみとする。なお、以下の情報はタイトル下の所属に含めず、必要であれば、論文採択後に提出する“著者紹介”を利用する。また、J-Stage規定との整合性を確保するため、所属は投稿者ひとりにつき、一か所とする。以上の趣旨と異なる場合は、編集委員会裁量で所要の形式に修正する。

- ・学部・学科・部署の名称や、研究科専攻の紹介等
- ・教員または学生の区別
- ・論文執筆時以外の所属
- ・著者の肩書き
- ・Eメールアドレス

■ 要約：

要約〔Abstract〕は英文とし、本学会所定の〔割付用紙〕に記載された指示事項に従い、150ワード以内で記述する。

要約〔Abstract〕は、「原著論文」「ノート」のいずれに対しても、研究内容が的確に理解できるよう簡潔に記述し、十分な校閲を経たものとする。査読の段階で不備が指摘された場合は、Native Checkを受けた要約〔Abstract〕を提出する。

■ キーワード：

キーワード〔Keywords〕は英文とする。本文の内容を的確に表すキーワードを、三つ程度記す。

■ 標題等の割付：

本学会所定の和文フォーマットに準じて、〔掲載区分、標題、著者名、所属、要約、キーワード〕の割付を1段組みで行う。本文は2段組とする。

■ 本文、参考文献の割付：

- 1) 天地左右余白（マージン）・段間余白（コラムスペース）は、〔割付用紙〕の指定寸法に準ずる。
- 2) 本文および参考文献に使用する書体は、本学会所定の〔割付用紙〕に記載された指示事項に準ずるようにし、横書き二段組とする。割付は、一段を27字×50行（1350字詰め）とする（1頁計2700字詰め）。
- 3) 文章は、当用漢字、現代かなづかい、ひらがなまじりを原則とする。
- 4) 原則として、例えば、〔緒言・序・はじめに、実験方法・調査方法、実験結果・調査結果、考察、要約・結語・結論・おわりに、謝辞、参考文献〕などの区分を設けて記述する。
- 5) 原稿には、大見出し・章、中見出し・節、小見出し・項などを設け、それらを明瞭に区分する。大見出し・章、中見出し・節が変わる時には、1行あける。なお、小見出し・項が変わっても、1行あけない。大見出し・章は、1., 2., 3., ……、中見出し・節は、1.1, 1.2, 1.3, ……の記号を用い、本文は改行する。小見出し・項は、(1) (2) (3) ……の記号を用い、改行せずに、1字あけて本文を続ける。さらに細分を要するときは、著者の分類に委ねる。
- 6) 普通に用いられる外国語の術語はカタカナ表記とする（例えば、industrial design → インダストリアルデザイン）。ただし、カタカナ表記することによって字義が不明確になるおそれのあるものは、この限りではない。なお、欧字のまま記す必要がある場合には、例えば、Morris, ideaのように、半角文字（1コマ2文字）にする。
- 7) 数字は原則として算用数字を用い、例えば、表1, 図2, 30cm, 7.2g, 1.08kg, 1,258, 5時間, 80円のように記す。また、英数字は、半角文字を用いる。
- 8) 年号、月日は、原則として算用数字を用いる。また、年号は西暦による表記を原則とし、元号を併記する場合には、例えば、1963（昭和38）年のように記す。
- 9) 句読点には、ピリオド（.）、コンマ（,）、中点・ナカグロ（・）、コロン（:）を用い、それぞれ全角にする。また、/「」『』（）{}<>《》【】なども1コマに書く。
- 10) 量記号、単位記号、符合は、国際的に慣用されているものを用いる。単位は、原則としてSI単位またはCGS単位を用い、記号で表示することが望ましい。必要ならば、JISZ 8203を参照する。
- 11) 文章中の式は2行にするのを避け、例えば、 a/b , $(a+b)/(c+d)$ のように記す。
- 12) 文章中の元素名、化学物質名は、原則として、文部省編「学術用語集、化学編」の和名で記す。
- 13) 混同しやすい文字や記号は、明瞭に区別できるようにする。1（イチ）とl（エル）、0（ゼロ）とO（オウ）などは特に注意する。

■ 図・表の割付：

- 1) 図・表の割付は、原稿2枚目（刷り上がり2頁目）以降から行う。
- 2) 図・表は、印刷に十分耐えるものでなければならない。刷り上がり時の文字が小さすぎないように十二分に配慮し、線の太さにも注意する。
- 3) 図・表の最大の大きさは、原則として刷り上がり1頁までとする。
- 4) 図・表には、図1, 図2-1, 表1, 表2-2のように通し番号をつけ、標題および本文を併読しなくても理解できる程度の簡単な説明を付記する。

なお、標題ならびに簡単な説明は、図の場合には図の下に、表の場合には表の上に記す。

- 5) 特に必要でない限り、同一データを図と表とで重複させない。
- 6) 写真は図として扱う。刷り上がり時に不鮮明となる写真は使用しない。

■ 参考文献，注の割付：

- 1) 参考文献は、通し番号とし、本文中の当該事項などの後に、[1]，[2,3]，[5-8] のように記す。作品などの参考文献でないものは「注」又は「脚注」とする。
- 2) 注は、通し番号とし、本文中の当該事項または人名などの後に、[注1]，[注13]，[注5-8] のように記す。文章の末尾に記す必要がある場合には、句読点の前に記す。
- 3) 参考文献及び注または脚注は、原則として、次のように記す。

雑誌の場合は、著者：標題，雑誌名，巻，号，頁，年の順に記す。例えば，

- [1] 日本太郎，青山由美子：シンボル・感性工学の日本の特性，感性工学研究，45，3，pp.57-60，1981.
- [2] Bohannon, P.: New Project for Industrial Design, Current Design, 5, 1966.

著書の場合は、著者：書名，発行所，頁，発行年の順に記す。例えば，

- [5] 日本富士雄：図説感性工学の基礎，日本書房，pp.55-72，1971.
- [7] Leach, E.: Forms and Function, National Press, p.87, 1976.

翻訳本の場合には、著者，翻訳者：書名，発行所，頁，発行年の順に記す。例えば，

- [10] ベルグ，A.，田中一郎訳：サインとシンボル，世界感性工学出版，p.23，1957.
- [13] Murdock, G., M.B. Caffee, trans.: Stage of Design, Univ. Press, pp.67-68, 1978.

■ 著者紹介：

掲載原稿の最後に著者紹介を掲載する。掲載決定後，150字程度の著者紹介文と顔写真（なるべくデジタル写真，あまり小さいものは画質が落ちるので好ましくない）を提出する。

■ 本執筆要領の発効：

本執筆要領は，平成12年2月26日以降に受け付ける研究論文から施行する。なお，本要領の改正は，理事会の議を経て，論文審査委員会が行う。

平成12年2月26日制定。

平成14年9月12日一部改定

平成17年1月22日一部改定

平成18年11月1日一部改定

平成25年11月2日一部改定

平成26年3月15日一部改定

受付番号
記入しないでください

日本感性工学会
論文集審査編集委員会

原稿区分 **論文** **論説** **報告** **ノート** 受領日
(掲載希望区分に○をつけてください) 記入しないでください

表題	
副題	
著者氏名	
所属	
キーワード	

※論文は4ページ以上10ページ以下を目安とする。ノートは4ページ以下とする。

論文タイプ 該当する論文タイプA~Jを選択してください。(複数指定可)

<input type="checkbox"/> A.技術報告論文	<input type="checkbox"/> F.実問題解決論文
<input type="checkbox"/> B.開発報告論文	<input type="checkbox"/> G.実践報告論文
<input type="checkbox"/> C.解決型実験報告論文	<input type="checkbox"/> H.実例分析論文
<input type="checkbox"/> D.実験手法開発型論文	<input type="checkbox"/> I.問題提起論文
<input type="checkbox"/> E.現象発見型実験報告論文	<input type="checkbox"/> J.サーベイ論文・解説論文

投稿者 連絡先	〒 <input type="text"/>
	Tel <input type="text"/>
	FAX <input type="text"/>
	Email <input type="text"/>
連絡事項	<input type="text"/>

論文表題

— 論文副題（必要に応じて） —

感性 太郎*, 感性 二郎**, 感性 三郎***

* 感性大学, ** 感性大学大学院, *** 感性産業株式会社

Title of the Manuscript (in English)

– Subtitle (in English, if necessary) –

Taro KANSEI*, Jiro KANSEI** and Saburo KANSEI***

* *Kansei University, 1-1-1 Kansei, Kansei-shi, Tokyo 111-8888, Japan*

** *Graduate School of Technology, Kansei University, 1-1-1 Kansei, Kansei-shi, Tokyo 111-8888, Japan*

*** *Kansei Sangyo Co. Ltd., 1-1-1 Kansei, Kansei-shi, Tokyo 111-8888, Japan*

Abstract: Life cycle inventory analysis (LCIA) of recycling system for wastepaper was examined from the point of view of CO₂ emission and energy consumption. The effect of increase of the percentage for wastepaper use was evaluated on production of the recycled paper. Compared with the paper 2%. Therefore, to examine the influence of the whole system, the numerical model of the recycling system for wastepaper was constructed with parameters: output of paper products, pulp sand fossil fuel consumption and so on. The effect of increase of ore, to examine the influence of the whole system, the numerical model of the recycling system for wastepaper was constructed with parameters: output of paper products, pulps and fossil fuel consumption and so on. The effect of increase of the percentage for wastepaper the paper made of 100% chemical pulp, it was estimated that the CO₂ emission of the recycled paper made of 100% recycled pulp would decrease by 45%.

Keywords: *Keyword-1, Keyword-2, Keyword-3*

1. はじめに

日本感性工学会誌に掲載する論文は、感性工学の発展に寄与することを目的に、広く感性工学 [1] に関する研究成果を掲載・発表するものである。

論文の著者に本学会会員が含まれていること。ただし、編集委員会が特に認めた者についてはこの限りではない。

2. 執筆要領

2.1 論文の種類

日本感性工学会の考える原著論文とは、他の学術雑誌・商業誌などに未発表の論文をいう。但し、口頭発表、国際会議での発表、紀要等の組織内の刊行物で類似の内容が発表されていても、投稿を妨げない。

なお、論文は4ページ以上、10ページ以下、ノートは4ページ以下を目安とする。

日本感性工学会では、感性工学に関連する分野・課題・方法論の多様性に鑑み、A~Jのタイプを設けて査読の方針を想定している。但し、これは典型的なタイプ分けであって、これらの中間形を排除するものではない。投稿に際しては、どのタイプの論文と考えているかを明記すること [2, 3]。

なお、論文原稿には、その内容がよく理解できる150ワード以内の英文要旨をつける。

2.2 標題

標題は和文ならびに英文とする。特に、主題は簡潔に、一見して研究論文の内容がよくわかるように工夫して記す。また、「・・・に関する研究 (1)」などの研究の連続性を示す標題は主題とせず、副題にする。英文表題には、原則的に冠詞は付けない。

2.3 著者名・所属

著者名・所属は和文ならびに英文とする。著者名は研究の直接担当者のみ限定し、謝辞のなかで挙げるのが適当と思われる研究者を著者扱いにすることは避ける。

2.4 要約

要約 [Abstract] は英文とし、本学会所定の [割付用紙] に記載された指示事項に従い、150ワード以内で記述する。要約 [Abstract] は、「原著論文」「ノート」のいずれに対しても、研究内容が的確に理解できるよう簡潔に記述し、十分な校閲を経たものとする。査読の段階で不備が指摘された場合は、Native Checkを受けた要約 [Abstract] を提出する [4]。

2.5 キーワード

キーワード [Keywords] は英文とする。本文の内容を的確に表すキーワードを、最大三つまで記す [5-8]。

3. 標題および本文の割付

3.1 標題等の割付

本学会所定の和文フォーマットに準じて、[掲載区分, 標題, 著者名, 所属, 要約, キーワード] の割付を1段組みで行う。

3.2 本文の割付

本文は2段組みとする。天地左右余白（マージン）・段間余白（コラムスペース）は、[割付用紙] の指定寸法に準ずる。本文および参考文献に使用する書体は、本学会所定の [割付用紙に記載された指示事項] に準ずるようにし、横書き二段組とする。割付は、一段を27字×50行（1350字詰め）とする（1頁計2700字詰め）。文章は、当用漢字、現代かなづかい、ひらがなまじりを原則とする。原則として、例えば、[緒言・序・はじめに, 実験方法・調査方法, 実験結果・調査結果, 考察, 要約・結語・結論・おわりに, 謝辞, 参考文献] などの区分を設けて記述する。原稿には、大見出し・章, 中見出し・節, 小見出し・項などを設け、それらを明瞭に区分する。大見出し・章, 中見出し・節が変わる時には、1行あける。なお、小見出し・項が変わっても、1行あけない。

大見出し・章は、1., 2., 3., …, 中見出し・節は、1.1, 1.2, 1.3, …, の記号を用い、本文は改行する。小見出し・項は、(1) (2) (3) … の記号を用い、改行せずに、1字あけて本文を続ける。さらに細分を要するときは、著者の分類に委ねる。普通に用いられる外国語の述語はカタカナ表記とする（例えば、industrial design→インダストリアルデザイン）。ただし、カタカナ表記することによって字義が不明確になるおそれのあるものは、この限りではない。なお、欧字のまま記す必要がある場合には、例えば、Morris, idea のように、半角文字（1コマ2文字）にする。

数字は原則として算用数字を用い、例えば、表1, 図2, 30cm, 7.2g, 1.08kg, 1.258, 5時間, 80円のように記す。また、英数字は、半角文字を用いる。年号, 月日は、原則として算用数字を用いる。また、年号は西暦による表記を原則とし、元号を併記する場合には、例えば、1963（昭和38）年のように記す。句読点には、ピリオド（.）, コンマ（,）, 中点・ナカグロ（・）, コロン（:）を用い、それぞれ全角にする。また、

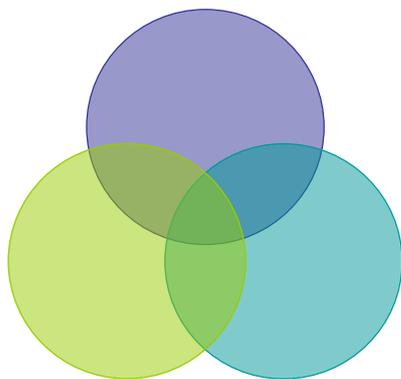


図1 快適性と強度との関係

表1 快適性と強度との関係

A	B	C	D	E
あ	い	う	え	お

／「」『』() { } 〈 〉 《 》 [] 【 】なども1コマに書く。量記号, 単位記号, 符号は、国際的に慣用されているものを用いる。単位は、原則としてSI単位またはCGS単位を用い、記号で表示することが望ましい。必要ならば、JISZ8203を参照する。文章中の式は2行にするのを避け、例えば、 $a/b, (a+b) / (c+d)$ のように記す。文章中の元素記名, 化学物質名は、原則として文部省編「学術用語集, 化学編」の和名で記す。混同しやすい文字や記号は、明瞭に区別できるようにする。1（イチ）と1（エル）, 0（ゼロ）と0（オウ）などは特に注意する。

3.3 図表の割付

図・表の割付は、原稿2枚目（刷り上がり2頁目）以降から行う。図・表は、印刷に十分耐えるものでなければならない。刷り上がり時の文字が小さすぎないように十二分に配慮し、線の太さにも注意する。図・表の最大の大きさは、原則として刷り上がり1頁までとする。図・表には、図1, 図2-1, 表1, 表2-2のように通し番号をつけ、標題および本文を併読しなくても理解できる程度の簡単な説明を付記する。なお、標題ならびに簡単な説明は、図の場合には図の下に、表の場合には表の上に記す。特に必要でない限り、同一データを図と表とで重複させない。写真は図として扱う。刷り上がり時に不鮮明となる写真は使用しない。

3.4 参考文献、注の割付

参考文献は、通し番号とし、本文中の当該事項などの後に、[1], [2, 3], [5-8] のように記す。作品などの参考文献にないものは「注」又は「脚注」とする。注は、通し番号とし、本文中の当該事項または人名などの後に、[注 1], [注 13], [注 5-8] のように記す。文章の末尾に記す必要がある場合には、句読点の前に記す。掲載原稿の最後に著者紹介を掲載する。掲載決定後、150字程度の著者紹介文と顔写真（なるべくデジタル写真。あまり小さいものは画質が落ちるので好ましくない）を提出する。

謝 辞

謝辞の本文, 謝辞の本文.

注

[注1] 注の本文.

参 考 文 献

- [1] 日本太郎, 青山由美子: シンボル・感性工学の日本的特性, 日本感性工学会論文誌, 45(3), pp.57-60, 1981. ←日本語誌名については省略せずに正しく完全な名称を記述すること。
- [2] Bohannon, P.: New Project for Industrial Design, Current Design, 5, 1966.
- [3] 日本富士雄: 図説感性工学の基礎, 日本書房, pp.55-72, 1971.
- [4] Leach, E., F. Codrington and G. L. Hemingway: Forms and Function, National Press, p.87, 1976.
- [5] Osgood, C. E.: The nature and measurement of meaning, Psychological Bulletin, 49(3), pp.197-237, 1952.
- [6] ベルグ, A., 田中一郎訳: サインとシンボル, 世界感性工学出版, p.23, 1957.
- [7] Murdock, G., M.B. Caffee, trans.: Stage of Design, University Press, pp.67-68, 1978.
- [8] Ekman, P. Official Website: <http://www.paulekman.com/> (2015/06/04 閲覧).
- [9] 第 18 回日本感性工学会大会 HP: <http://www.jske.org/taikai/jske18/submission/> (2016/04/14 閲覧). ←URL が長すぎて 1 行に入らない場合は、適切な場所で改行する。